

予防技術検定模擬テスト

— 解説付 —

NO.74

【共通】問1 次に掲げる防火対象物で、その管理について権原が分かれているもののうち、消防法令上、統括防火管理者を定める義務がないものを1つ選べ。

- (1) 遊技場とカラオケボックスからなる複合用途防火対象物のうち、地階を除く階数が3で、かつ、収容人員が30人のもの
- (2) 老人短期入所施設と養護老人ホームからなる防火対象物のうち、地階を除く階数が2で、かつ、収容人員が50人のもの
- (3) 事務所と共同住宅からなる複合用途防火対象物のうち、地階を除く階数が5で、かつ、収容人員が50人のもの
- (4) 事務所の用途に供される高層建築物

【消防用設備等】問1 性能規定化に関する次の文を読み、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

- (1) 「必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等」とは、総務省令で定めるところにより消防長又は消防署長が、その防火安全性能が当該通常用いられる消防用設備等の防火安全性能と同等以上であると認める消防の用に供する設備、消防用水又は消火活動上必要な施設をいう。
- (2) 「必要とされる防火安全性能を有する消防の用に供する設備等」における「防火安全性能」とは、「火災の拡大を初期に抑制する性能」、「火災時に安全に避難することを支援する性能」又は「消防隊による活動を支援する性能」をいう。
- (3) 延べ面積が1万㎡の病院の病室には、スプリンクラー設備に代えてパッケージ型自動消火設備を設置することはできない。
- (4) 消防長又は消防署長は、特殊消防用設備等の設置に係る工事が完了した旨の届出があったときは、遅滞なく、当該特殊消防用設備等が設備等設置維持計画に適合しているかどうかを検査しなければならない。

【消防用設備等】問2 次に掲げる避難器具のうち、消防法令上、当該避難器具を設置する開口部の位置が相互に同一直線上にあってはならないものを1つ選べ。ただし、当該位置は「避難上支障のないもの」ではないものとする。

- (1) 避難ロープ
- (2) 避難橋
- (3) 避難用タラップ
- (4) 緩降機

【防火査察】問1 消防法（以下「法」という。）の違反処理に関する記述のうち、不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 聴聞は、不利益処分を受ける者に、口頭による意見陳述や質問の機会などを与え、処分を受ける者と行政庁側のやり取りを経て、事実判断を行う手続きである。
- (2) 命令を行ったときに行う公示は、社会的影響を考慮し、関

係者が命令事項を履行する意思を示した時等をもって、解除することができる。

- (3) 略式の代執行とは、行政代執行法に基づく正式の代執行において行われる「戒告及び代執行命令書による通知の手続」を省略した手続きである。
- (4) 警告は、行政指導としての事実行為であるから、警告の主体には限定がないが、行政上の実効を期する意味から、命令の主体である消防長等が行うのが適当である。

【防火査察】問2 消防法（以下「法」という。）の立入検査に関する記述のうち、不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 法令上は事前の通告を必要としないが、消防対象物の位置、構造等について正確な情報の入手、検査実施時の安全確保の観点から立入検査の相手方の立会を求めると判断したので、事前の通告を実施し、立入検査を実施することとした。
- (2) 限られた時間において重点的、効率・効果的な立入検査を実施するため、防火対象物の状況や過去の指導経過等を事前に把握し、検査に必要な事項を検討しておくなどの事前の準備が必要である。
- (3) 立入検査の結果の通知は、違反改修の履行義務者に対しする必要があるが、通知しようとする内容に関して履行義務者が複数のときは、業務の効率化を図るため、履行義務者の代表者一名に通知することとした。
- (4) 立入検査において、事実を特定する必要があると判断したので、消防対象物の関係者に対し、既に作成されていた建物の図面を提出するよう指導した。

【危険物】問1 次の特性を有する物質は、消防法上どのように分類されるか。

融点 40.9℃ 沸点 181.7℃ 引火点 79℃

分子式 C₆H₅OH

- (1) 危険物（第2類 可燃性固体）
- (2) 指定可燃物（可燃性固体類）
- (3) 危険物（第4類 引火性液体）
- (4) 指定可燃物（可燃性液体類）

【危険物】問2 次のような量の危険物を貯蔵する場合、指定数量の倍数が最も大きいものはどれか。

- (1) 第1類（第3種酸化性固体） 2,000 kg
- (2) 第4類 第3石油類（非水溶性液体） 1万ℓ
- (3) 第2類 引火性固体 3,000 kg
- (4) 第5類（第1種自己反応性物質） 100 kg

【組織管理】

問1 答 (5)

- 解説 (1) 航空消防隊などは、都道府県に属するため、誤り。
 (2) 相互応援や支援の仕組みの一環であるため、誤り。
 (3) 総務大臣が策定し、公表するため、誤り。
 (4) 総務大臣が策定し、変更するため、誤り。
 (5) 正しい。

【人事管理】

問1 答 (5)

- 解説 (1) 獵官主義ではなく成績主義であるため、誤り。
 (2) 勤務経歴等も考慮できるため、誤り。
 (3) 受験もできないため、誤り。
 (4) 昇任及び降任以外の方法であるため、誤り。
 (5) 正しい。

【消防財政】

問1 答 (5)

- 解説 (1) 使用料等は納付可能であるため、誤り。
 (2) 事後も認められるため、誤り。
 (3) 口頭、掲示等もあるため、誤り。
 (4) 必要としないため、誤り。
 (5) 正しい。

【警防】

問1 答 (3)

解説 発電時で最高 80℃に達する。

問2 答 (2)

解説 火点直下階を最重点とする。

問3 答 (4)

解説 最先到着隊は、防災センターに直行し、関係者及び総合操作盤等から火災状況等の情報を収集する。

【救急】

問1 答 (5)

解説 (5)は脳血栓症である。慢性硬膜下血腫は、軽微な頭部外傷で3～4週間以上経ってから、頭痛などの頭蓋内圧亢進症状、片麻痺などの巣症状や痴呆などの精神症状が発症する。高齢者に好発するが、若年者でもまれに生じる。
 (1)、(2)の脳出血は、血圧変動を起こしやすい入浴時とその前後や、精神的興奮、高齢者の排便などで発生しやすい。

問2 答 (1)

解説 (2)

夜間の呼吸困難に湿性ラ音、下肢に浮腫を認め、SpO₂値84%と低酸素状態を示している。左心不全による肺水腫が疑われる。したがって、仰臥位にすれば症状の増悪を招くおそれがあるので禁忌である。また、2階から搬送するには、一般的には階段を使って搬送することになるので、早期にマンパワーを確保し、安全かつ迅速に搬送収容するためにも、消防隊の現場への応援要請は必要と思われる。

問3 答 (4)

解説 救急業務実施基準第30条参照。「毎年1回以上、その計画に基づく訓練を行うもの」とされている。

予防技術者検定テスト

【共通】

問1 答 (2)

- 解説 (1) 消防法施行令第3条の3第2号。
 (2) 消防法施行令第3条の3第1号 地階を除く階数が3以上でなければ、統括防火管理者の設置義務は生じない。
 (3) 消防法施行令第3条の3第3号。
 (4) 消防法第8条の2第1項。

【消防用設備等】

問1 答 (3)

- 解説 (1) ○ 消防法施行令第29条の4第1項。
 (2) ○ 消防法施行令第29条の4第1項。
 (3) × パッケージ型自動消火設備の設置及び維持に関する技術上の基準を定める件(平成16年消防庁告示第13号)第3により、設置可。
 (4) ○ 消防法施行規則第31条の3第2項。

問2 答 (4)

解説 消防法施行規則第27条第1項第2号括弧書きにより除外されないのは緩降機である。

【防火査察】

問1 答 (2)

- 解説 (1) 違反処理マニュアルにより適当。
 (2) 命令を行ったときは、速やかに公示し、命令事項が履行された時等、命令が効力を失うまでの間、維持する必要があるため、不適当。
 (3) 違反処理マニュアルにより適当。
 (4) 違反処理マニュアルにより適当。

問2 答 (3)

- 解説 (1) 立入検査マニュアルにより適当。
 (2) 立入検査マニュアルにより適当。
 (3) 履行義務者が複数のときは、それぞれの履行